第5回 中井やまゆり園元利用者の死亡事案に係る検証チーム議事録

日時：令和7年5月20日（火）18時00分から19時30分まで

場所：小田原合同庁舎 2F 会議室

参加者：学識経験者（第三者） 國學院大學 佐藤 彰一名誉教授（座長）
支給決定自治体 小田原市福祉健康部障がい福祉課
相談支援事業所 社会福祉法人永耕会 相談支援センターういず
短期入所事業所 （事業所名非公開）
県 福祉子どもみらい局福祉部障害サービス課
中井やまゆり園

結果概要

(1) これまでの検証を受けての振り返り

- ・ 虐待ケースとしての認識に差があった。
- ・ 信頼関係を築き、相談を受ける組織風土になっていなかった。
- ・ 転居について十分に話し合うことが無かった。これまでの積み重ねがあり、相談しても無駄だという状態にあったのではないか。
- ・ 本人を中心に、両親も支援者も含めて皆がチームになることがなかった。
- ・ 本人も家族も孤立していた。
- ・ 実際に支援者等が見ていない家庭の中の状況がどうだったかという理解、本人や家族の理解も十分ではなかった。
- ・ 関係機関の間の信頼関係もなかった。

(2) 再発防止策について

- ・ 孤立を感じさせない支援とは何かを考える必要がある。
- ・ 本人と家族と関係機関が集まり、支援について一緒に話し合う場が必要である。
- ・ 本人の意思も尊重し、施設入所に限らない寄り添い方を考える必要がある。
- ・ 地域生活支援拠点について、対象者と登録の事業所を広げながら緊急対応の幅を広げることを検討する。
- ・ 県と自治体と関係機関で連携してということで、自治体としても積極的に関わり早急に安全確保できるように取り組んでいく必要がある。